

令和3年度 第2回総合教育会議議事概要

令和3年10月20日(水)に令和3年度 第2回総合教育会議が開催されました。

第2回総合教育会議の議事概要は別添のとおりです。

令和3年度 第2回福知山市総合教育会議 議事概要

日 時 令和3年10月20日(水)
午前10時00分～
場 所 市役所6階 601会議室

■出席者(敬称略)

教育長 端野 学
教育委員 塩見 佳扶子、和田 大頭、加藤由美、織田信夫
市長 大橋 一夫
事務局
市長公室長、市長公室次長、経営戦略課長

■開会 大橋市長挨拶

今年7月に開催した第1回総合教育会議では、AIやICTといった情報技術の進歩や、新型コロナウイルス感染症による「新しい生活様式」など、日々大きく変わりゆく社会の中で、子どもたちが必要な資質や能力を身につける教育を実現するために先進的に取り組んでいる「ICT活用教育」について、報告や紹介を交えながら意見交換をさせていただきました。

教育行政においては、小学校・中学校において新たな教育指導要領が実施され、子どもたちがさまざまな変化に積極的に向き合い、「主体的、対話的で深い学び」を大切にした教育が進められているとお聞きしている。ICTの活用とともに、大きく変わりゆく時代に求められる、子どもたちに必要な力を身につける取組が今後も大変重要であると感じている。

こうした時代や社会の中で、市と教育委員会が連携を深め、「教育のまち 福知山」の更なる発展に向け取り組むため、今回は、前回も意見をいただいた教育大綱の改訂について協議いただききたい。

■協議事項

(1) 福知山市教育大綱の改訂について

大橋市長

今年7月の第1回総合教育会議において、大綱策定の進め方や今後のスケジュールについて事務局より説明し、皆様から意見をいただいた。

前回での意見を踏まえ、本日は教育大綱の素案をお示しし、皆様からご意見をいただきたい。

それでは、事務局より説明する。

事務局

・【資料 福知山市教育大綱(案)】をもとに、素案の内容について説明

和田委員

素案について何も申し上げることはないが、寂しいところがあるという印象。

教育委員会制度が変わって教育大綱は市長が作成されることになって初めての計画に

なる。

学力を伸ばす取組みや、学習指導要領の改正や学校間の接続等については教育委員会が取り組んでいくとして、プログラミング教育や防災教育、ICT教育で世界に羽ばたく子どもたちの育成、ふるさと福知山に定着して未来の福知山を担う若者の育成等、以前から市長より聞かせて頂いている市長の教育ビジョンを入れた大綱を作成してほしい。その思いを踏まえ、項目別に作成していけるとよいのではないかと思います。

加藤委員

内容について意見はないが、未来ビジョンのあとの具体的な施策等に繋がればと思う。福知山ならではの取組に繋がることを期待したい。

私自身、かつて昭和小学校で勤務しており、秋田県や広島県等、他府県から視察があった。視察内容は、本市の就学前の発達課題のある子どもへの支援システムであり、そのシステムの1つである通級指導教室の幼児部が昭和小学校にあった。その支援システムが充実しているのが本市の強みであり、悩みを抱えた保護者や子どもたちの支援が見える形で行われていると感じていた。

本市には就学から就労まで支援するベースがある。就学前から大学まである「教育のまち福知山」として、今後福知山のよさが具現化されるといいなと思う。市民懇談会の中でも施策の整備や関係機関と連携してほしいという意見も書かれていたので、今後大綱の内容が具現化されていけばよいと感じた。

塩見委員

次期教育大綱案が学校教育、社会教育の重点や響プラン、市民懇談会を参考に作成されており、「教育のまち福知山」が目指す方針がよく分かった。

感じた意見は2点。

1点目は表記の仕方。P.4 体系図について、構造的に書いていただけると、この教育大綱全体の関係性が分かりやすくなるのではないかと。

2点目は P.6 の【(2) いつからでも何歳でも、自分らしく学びを深められるまち】の項目に「誰もが生涯を通じて学べる場を提供する」という文章があるが、もう少し詳しく表現するために「生涯を通じて学び、自己実現につながる場を提供します」とし、「自己実現」という言葉を入れてほしい。そうすると「自分のために、人のために、社会のために」という教育目標が明確になるのでは。

織田委員

教育大綱案に記載されている内容をいかに具現化していくか、各部署に取組みをお願いしたい。

今回、福知山市自治基本条例を初めて読んだ。市民と市が一丸となったまちづくりを進めることが必要で、自助・共助・公助が機能する仕組みを築いていかななくてはならないということが明記されている。

まちづくり構想福知山において、市と市民との関連性が示せると市民の方々の参画も得られやすいのではと思う。文字ばかりが先走ると難しい。いかに市民に参画してもらうかというところが欠けているのではと思っている。市民懇談会の中で様々な意見が出てきていて、実現に向け行動もしていかなければならない。自助共助公助が機能できる仕組みを考えて取り組まないといけないと思う。

市長

いままでの総合計画は行政が作成し、行政が何をするかということを記載しているのがほとんどであった。今回は市民にもまちづくりに携わっていただく項目を挙げ、一体となって取り組んでいくというのがねらい。そういう流れの中で教育大綱も作成できればと思う。

事務局

頂いた意見も踏まえ、大綱案は修正を行っていく。

7月にも示した今後の策定の流れについて、まちづくり構想については市民懇談会が終了したので、今後審議会を行い、市へ答申いただき、策定に向けた手続きを行う。

教育大綱についても年内に素案を完成させ、年明けにパブリックコメントを行い、年度末に策定というスケジュールを考えている。今回いただいた意見を踏まえ、次回会議で案を示す。

和田委員

まちづくり構想福知山について、既に始まっていると思うが、地域別説明会での反応はどうか。

事務局

昨日までに4か所で説明会が終了した。

主な意見としては、「市民協働でまちづくりを進めることはわかったが、では具体的にどうしていくのか」という意見が多い。将来を見据えて、行政がやること、市がやることを詰めていく必要がある。

まちづくり構想福知山はあくまで方向性である。これをいかに具現化していくのか、市民と共に考えてほしいという意見もあった。

市長

「子育てのしやすさと学びのまち」の分科会での反応はどうか。

事務局

説明資料 P.15、16 に分科会でまとめた項目がある。(項目②～⑧) 例えば保護者や子どもが生きづらい世の中になってきており、学校教育でフォローできる部分と、それ以外に学びの居場所をつくるとよいのではという意見があった。また、特に転入者の保護者が子育てにおいて孤立しているという意見もあり、駆け込み寺のような場所があればよいなどという意見もあった。

こういった市民が取り組むことと、教育委員会含め行政が取り組むことがうまくリンクして進めばよいと思う。

■閉会 端野教育長挨拶

本日は2回目の大綱改訂に向けた協議であった。まちづくり構想福知山における地域別説明会でも、今後の具体的な取組みについて意見があったと聞いたが、教育大綱についても具体的な取組みについては出てこない。

平成26年7月17日付 文部科学省初等中等教育局長通知において、平成26年6月20日に地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正について通知されたことを一部紹介し、挨拶に変えたい。

通知には新しい教育委員会制度について書かれており、その中に【大綱の定義】という

項目があり、「大綱は地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策についてその目標や施策の根本となる目標を定めるものであり、詳細な施策について策定することを求めるものではない」という文がある。また、「大綱は、教育基本法に基づき策定される国の教育振興基本計画における基本的な方針を参酌して定めることとされている。参酌とは参考にするという意味であり、教育の課題は地域によって様々であり、地方公共団体の長は地域の実情に応じて大綱を作成するものである」という定義が記載されている。これが基本的な大綱の考え方である。

他市の教育大綱も見るが、本市に似ているものはない、福知山市ならではの大綱になっているのではと思う。

次に、通知では総合教育会議についても触れられており、留意事項として、「今回の改正は、総合教育会議が設置されることにより、教育に関する予算・執行や条例の提案等重要な権限を有している地方公共団体の長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、地域の教育の課題やあるべき姿を共有して、より一層民意を反映した教育行政の推進を図ることとする」と明記されている。

人づくりはまちづくり、まちづくりは人づくり。人づくりは教育委員会が担い、将来を見通す中で今後将来の跡継ぎをつくるのが私たちの仕事である。まちづくりという市長の地方自治の部分が大きく影響してくるので、まさに総合教育会議で大綱策定するのは重要なことである。

そこで教育委員会では、10年間のプログラムが終了し、5年間のFプランへ切り替えた。そのなかに目指す先を掲げている。今回の会議では、大きな大綱という協議をしていただいた。第3回では具体的などころも思い描きながら教育大綱の策定について協議できればと思う。

以上